

# スポーツの価値を基盤とした 授業づくりワークショップ

JADA 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構

協力：九州体育・保健体育ネットワーク研究会

H29. 1. 29（日）味の素ナショナルトレーニングセンター

スポーツ庁、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構の主催によるワークショップが開催されました。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、国際的なスポーツ機関から「スポーツの価値」に基づいた教育の重要性が強調されています。今年度は高等学校7校の実践発表があり、特色ある取り組みが報告されました。また、公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者の資格更新のための義務研修にもなっており、様々なスポーツ指導者の方々から、学校以外のスポーツ現場の話をお聞きできる学びの場となりました。

## 1、スポーツの価値を基盤とした授業づくりを通して目指すもの



佐藤豊（桐蔭横浜大学）先生から、「体育」という枠組みだけでなく、人間形成から見たスポーツの価値とは何かを説明いただき、そのために「価値教育」の効果的活用、カリキュラム・マネージメントの視点、そしてスポーツがすべての子供達に有意義だと感じられる授業づくりの考え方を示していただきました。

浅川伸（公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構）専務理事から、アンチ・ドーピング活動の最新動向として Rio 大会報告、ロシア問題の概説、そして TOKYO2020 に向けては、「違反者を参加させないためのインテリジェンス」をめざし、ホスト国としてスポーツ庁始め、関係各位と連携強化を図っていく必要があることを説明いただきました。

## 2、実践報告（スポーツの価値を基盤とした授業づくりについて）

報告者	発表内容
鹿児島県霧島市立国分中央高校 吉村知之教諭	スポーツ健康科がスポーツ総合演習で取り組み、グループ討議や発表、意見交換を通し「自分に勝つためのスポーツ」として視野を広げた。
福岡県立三潨高等学校 濱口麻衣子教諭	パラリンピックの事例を活用し、ディベート等を通して選手の「勇気」や「決断」を知ることで、パラリンピックや障害者スポーツの関心を高めた。
福岡県立直方高等学校 竹内宏行教諭	ペア・グループワークで討議し、多様なスポーツの理解を深めた。オリ・パラシンポジウムを開催して、生徒の主体的な学びを促進した。
和歌山県立和歌山北高等学校 山本喜一郎教諭 井村太佑教諭	リオオリンピック等の事例より、今後の日本の社会を見据えてスポーツ選手が出来ること、自分自身が社会貢献出来ることについて考えさせた。
山形県立山形中央高等学校 佐藤 若教諭	体育理論と特別活動（体育祭）の連携を行い、生徒が主体となって学校全体でスポーツの価値を体現し、日常化へ向けて取り組んだ。
北海道札幌平岸高等学校 佐々木浩一教頭	全校一斉授業、体育理論、情報、美術の授業を通して「Pray True」を表現し、アジアオセアニアアンチ・ドーピングセミナーにて世界に発信した。
北海道札幌清田高等学校 猪股貴則教諭 菅原桂子教諭	「体育理論」の授業ポスター作成・発表。さらに、英語の授業で取り組み、アジア・オセアニアアンチドーピングセミナーにて英語で発表した。

## 3、グループワーク

「保健体育」「保健体育×他教科」「特別活動やイベント」の3つのタイプに分かれて、指導案や授業展開のフレーム作りにチャレンジしました。各スポーツ指導者の方々からは学校の外から見た授業の視点から、教員は日頃の実践経験を基に、地域や現状の違いも踏まえながら意見を出し合い、発想が広がっていきます。最後はプレゼンテーション&意見交換により、ホットな情報共有ができました。



## 4、まとめ

浅川専務理事からは「スポーツ村のスポーツ好きの住民が、スポーツっていいよ」ではなく、社会全体にスポーツ文化として価値を上げること。佐藤先生からは、スポーツそのものの楽しさである内在的な価値、規範性や公平性等を身につける社会を守る力、多様性や問題解決などカスタマイズする力がよりよい社会を作るといふ、3つの視点を最大限引き出す授業づくりが求められていることをご教授いただきました。すぐにも実践したいアイデアを沢山頂き、明日への活力となりました。（報告：佐藤若）